

(2) 様式第9号 (報告書)

(独立行政法人教職員支援機構委嘱事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業報告書

プログラム名	秋田県教員育成指標と新たな教育課題に対応した現職教員研修の高度化・体系化プログラムの開発
プログラムの特徴	秋田県教育委員会と秋田県総合教育センターと連携し、教職大学院授業科目の一部を、①秋田県教員育成指標と新たな教育課題に対応するよう高度化・体系化した履修証明プログラムを開発する、②センター研修員及び秋田県公立学校教員と教職大学院院生が協働的に学び、資質・能力の向上を図ることが可能な履修証明プログラムの活用促進方法についても検討する。

令和2年 3月

秋田大学大学院教育学研究科教職実践専攻

秋田県総合教育センター

## プログラムの全体概要

# 秋田の未来と教育を支える人材の育成

改善

令和2年度申請事業

### G. 学校組織開発リーダーコース（管理職育成研修）

今後管理職養成の困難が予想されることを踏まえた、管理職着任前研修の開発。

新規

### F. 学校ミドルリーダーコース

令和元年度事業を踏まえた編成。

「秋田の授業力の継承と発展」「ふるさと秋田のキャリア教育」「障害児支援におけるチームアプローチ」「発達生涯の事例分析と対応策の検討・評価」「情報教育の教材とカリキュラム開発」「学校組織文化の形成と機能」「課題実地演習Ⅰ」「課題実地演習Ⅱ」

モディフィケーション

さらなる改善

<申請時計画>

- A. 小学校英語教育推進リーダーコース
- B. プログラミング教育推進リーダーコース
- C. キャリア教育推進リーダーコース
- D. 特別支援教育推進リーダーコース
- E. 学校組織開発リーダーコース

\*受講者は自身の興味・関心、所属校の研究課題等のニーズから、コースを選択。

\*必修科目、選択科目の4科目8単位  
120時間を履修。

計画変更

<計画変更後>

### F. ミドルリーダーコース

\*受講者は自身の興味・関心、所属校の研究課題等のニーズから、申請時にラインアップした科目から受講科目を選択。

\*受講用件を設けず、プログラムのニーズ、運用の課題を析出することを目的として実施。

秋田県  
教員育成指標

秋田県  
教職員研修体系

## 1 開発の目的・方法・組織

### ① 開発の目的

秋田県教員育成指標の策定を受け、養成・採用・研修の一体的な取組を推進する必要がある。また、社会的変化の影響や地域の実状を踏まえた新たな教育課題に対応した教育の展開も求められている。

秋田大学教育文化学部は、秋田大学教育文化学部と秋田県教育委員会及び秋田市教育委員会との「教師力向上協議会」を置いている。また、平成31年4月には、附属教育実践研究支援センターが、養成・採用・研修の中心的な働きを担うよう「附属教職高度化センター」に改組し、秋田県総合教育センター・秋田市教育研究所の指導主事を連携推進員として加えた。このように、秋田県教育委員会・秋田市教育委員会との連携を図ってきている。

本事業では、秋田県教育委員会と秋田県総合教育センターと連携して、教職大学院授業科目の一部を、①秋田県教員育成指標と新たな教育課題に対応するよう高度化・体系化した履修証明プログラムの開発、②秋田県教員育成指標における履修証明プログラムの運用方法の検討、を目的とする。

### ② 開発の方法

開発にあたっては、教職大学院授業科目の一部を、秋田県教員育成指標と新たな教育課題に対応するよう高度化・体系化したコースを編成（ミドルリーダー養成コース）する。

具体的には、4科目8単位、計120時間から成る、次の5コースを編成する。秋田県総合教育センター研修員（以下、受講者）は、希望するコースの科目を選択し受講する。

- A. 小学校英語教育推進リーダーコース
- B. プログラミング教育推進リーダーコース
- C. キャリア教育推進リーダーコース
- D. 特別支援教育推進リーダーコース
- E. 学校組織開発リーダーコース

これらのコースを試行し、履修証明プログラムの内容と試験実施の結果を踏まえ、履修証明プログラムの運用に向けた課題「秋田県教員育成指標への位置付け」「履修証明プログラムの内容」「履修証明プログラムの実施に向けた条件整備」を検討する。

さらに、上記コースの科目の受講者を対象に質問紙法による調査を行い、その質的分析を行う。その分析結果を基に、各コース並びに研修プログラムの評価・改善を行う。さらに、秋田県教育委員会、秋田県総合教育センター、秋田市教育研究所の研修担当者による外部評価も実施する。これらの評価結果に基づき、履修証明プログラムを実施に向けた条件の整備を検討する。この業務は、秋田大学教職大学院専攻長を委員長とする教員の資質向上研修プログラム開発連携協議会事務局が行う。

### ③ 開発組織

本プログラムは、大学院と秋田県教育委員会、秋田市教育委員会から研修プログラム開発支援事業運営・評価委員会、研修プログラム開発支援事業実施委員会を構成した。

<研修プログラム開発支援事業運営・評価委員会>

委員長	佐藤修司	教育学研究科長
委員	鈴木高志	秋田県教育庁総務課政策企画・広報班副主幹（兼）企画監
委員	坂本寿孝	秋田県総合教育センター副所長
委員	坂谷陽	秋田市教育委員会学校教育課長
委員	佐藤学	教職高度化センター長兼教職実践専攻長
委員	田仲誠祐	教職高度化センター副センター長

<研修プログラム開発支援事業実施委員会>

委員長	佐藤学	教職高度化センター長兼教職実践専攻長
委員	佐々木泰宏	秋田県総合教育センター研修班主任指導主事
委員	大月真由美	秋田市教育委員会教育研究所主席主査
委員	田仲誠祐	教職高度化センター副センター長
委員	長瀬達也	教職実践専攻教授
委員	古内一樹	教職実践専攻特別教授
委員	秋元卓也	教職実践専攻特別教授
委員	三浦亨	教職実践専攻准教授
委員	小池孝範	教育文化学部准教授
委員	細川和仁	教育文化学部准教授

研修プログラム開発支援事業運営・評価委員会は本プログラムの企画・運営・評価を行い、研修プログラム開発支援事業実施委員会は本プログラムにおける事業の計画・実施を行った。

なお、各委員会の活動は、次のとおりである。

<研修プログラム開発支援事業運営・評価委員会>

- 平成31年 4月 委員委嘱及び計画（概略）の説明
- 令和元年 5月 計画の見直し(案)の検討
- 令和元年10月 成果発表会①の実施
- 令和元年12月 成果発表会②の実施
- 令和2年 2月 成果発表会③の実施
- 令和2年 3月 報告書の検討

<研修プログラム開発支援事業実施委員会>

- 平成31年 4月 委員委嘱及び計画（概略）の説明
- 令和元年 5月 計画の見直しの検討
- 令和元年10月 成果発表会①の実施
- 令和元年12月 成果発表会②の実施
- 令和2年 2月 成果発表会③の実施
- 令和2年 3月 報告書の検討

## 2 開発の実際とその成果

### ① ミドルリーダー養成コース

#### ○研修の背景やねらい

秋田県教員育成指標の策定を受け、養成・採用・研修の一体的な取組を推進する必要がある。また、社会的変化の影響や地域の実状を踏まえた新たな教育課題に対応した教育の展開も求められている。そこで、秋田県教員育成指標と新たな教育課題に対応するよう高度化・体系化したコースを編成する。

#### ○対象、人数、期間、会場、日程、講師

##### A. 小学校英語教育推進リーダーコース

区分	科目	時間割		講師	受講者数
		後期	月		
必修	小学校英語の理論と実践	後期	月Ⅰ	若有・他	0
必修	秋田の授業力の継承と発展	前期	水Ⅱ	阿部・他	0
選択	国際理解教育の教材とカリキュラムの開発	後期	月Ⅱ	長谷川・他	0
選択	秋田型アクティブラーニングの授業デザインと評価	後期	水Ⅲ	佐藤学・他	0
選択	教職実践リフレクションⅡ－実践指導研究	後期	金Ⅴ	三浦・他	2

\*必修：コース必修科目、選択：コース選択科目

#### B. プログラミング教育推進リーダーコース

区分	科目	時間割		講師	受講者数
必修	ICTを活用した教育の実践と課題	前期	水Ⅱ	林良・他	0
必修	情報教育の教材とカリキュラム開発	後期	金Ⅰ	林良・他	0
選択	秋田の授業力の継承と発展	前期	水Ⅱ	阿部・他	0
選択	秋田型アクティブラーニングの授業デザインと評価	後期	水Ⅲ	佐藤学・他	0
選択	教職実践リフレクションⅫー実践指導研究	後期	金Ⅴ	三浦・他	2

\*必修：コース必修科目、選択：コース選択科目

#### C. キャリア教育推進リーダーコース

区分	科目	時間割		講師	受講者数
必修	ふるさと秋田のキャリア教育	前期	水Ⅱ	林良・他	3
選択	ふるさと秋田の教育資源とカリキュラム開発	後期	金Ⅰ	林良・他	0
選択	ふるさと秋田における地域課題教育	前期	木Ⅳ	池本・他	0
選択	秋田型アクティブラーニングの授業デザインと評価	後期	水Ⅲ	佐藤学・他	0
選択	教育実践力の向上と秋田型協同研究システム	集中	—	長瀬・他	2
選択	教職実践リフレクションⅫー実践指導研究	後期	金Ⅴ	三浦・他	2

\*必修：コース必修科目、選択：コース選択科目

#### D. 特別支援教育推進リーダーコース

区分	科目	時間割		講師	受講者数
必修	障害児支援におけるチームアプローチ	前期	水Ⅰ	武田・他	1
必修	発達障害の事例分析と対応策の検討・評価	前期	金Ⅲ	鈴木・他	3
必修	障害児のキャリア発達と支援	後期	水Ⅱ	前原・他	0
選択	学校教育の現代的課題	前期	金Ⅱ	佐藤修・他	2
選択	教職実践リフレクションⅫー実践指導研究	後期	金Ⅴ	三浦・他	2

\*必修：コース必修科目、選択：コース選択科目

#### E. 学校組織開発リーダーコース

区分	科目	時間割		講師	受講者数
必修	学校教育の現代的課題	前期	金Ⅱ	佐藤修・他	0
選択	学校・学級経営の現状と課題	後期	木Ⅲ	鎌田・他	0
選択	学校組織文化の形成と機能	後期	金Ⅱ	細川・他	0
選択	学校危機管理の現状と課題	後期	金Ⅲ	佐藤修・他	2
選択	教職実践リフレクションⅢー課題実地研究	集中	—	鎌田・他	0
選択	教職実践リフレクションⅫー実践指導研究	後期	金Ⅴ	三浦・他	2

\*必修：コース必修科目、選択：コース選択科目

\*科目「教職実践リフレクションⅢー課題実地研究」については、その一部として、被災地等調査研修旅行を行った。また、科目「学校危機管理の現状と課題」において研修報告発表を行った。

### ○各研修項目の配置の考え方（何をどの程度配置すべきと考えたか）

#### <必修科目の設定>

各コースとも、コースの趣意の中核となる必修科目を設定した。必修科目は、教職大学院の共通科目をあてた。

#### <選択科目の設定>

各コースとも、選択科目を設定し、受講者の興味・関心、研修方法に対応できるようにした。

特に、科目「教職実践リフレクションⅫー実践指導研究」は、秋田県総合教育センターと秋田大学教育文化学部の連携事業の1つとして行っている学部科目「教職発展演習」の取組が、本科目の趣意と合致することから選択科目として全コースに含めた。

＜外部講師の活用＞

新たな教育課題に対応した内容構成とした。当該授業科目の一部に外部講師を加え、先進的な学修を提供できるようにした。具体的には、科目「情報教育の教材とカリキュラム開発」では渡邊茂一氏（神奈川県相模原市教育センター指導主事）、科目「教育実践力の向上と秋田型協同研究システム」では市川尚氏（岩手県立大学ソフトウェア情報学部准教授）を招聘した。

＜秋田県総合教育センター研修員の実状を踏まえたコースの再編成＞

秋田県総合教育センターの研修員が減員していること、教職大学院での研修日が「火・水・金」に限定されていること、前期、後期ともに1科目を基本としていることから、当初設定したコースでは実施できないため、下記に示すコースに再編成した。

区分	科目	時間割		講師	受講者数
選択	ふるさと秋田のキャリア教育	前期	水Ⅱ	林良・他	3
選択	障害児支援におけるチームアプローチ	前期	水Ⅰ	武田・他	1
選択	発達障害の事例分析と対応策の検討・評価	前期	金Ⅲ	鈴木・他	3
選択	学校教育の現代的課題	前期	金Ⅱ	佐藤修・他	2
選択	学校危機管理の現状と課題	後期	金Ⅲ	佐藤修・他	2
選択	教職実践リフレクションⅫー実践指導研究	後期	金Ⅴ	三浦・他	2

○各研修項目の内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
第7回あきたの教師力高度化フォーラム	150分	先進的な知見と取組から「プログラミング教育」についての理解を深める。	1. 内容・形態・進め方 ○基調講話「プログラミング教育で子どもたちにどのような力をつけさせるのか」（60分） ＜講師＞ 宮城教育大学教授 安藤明伸氏 ○パネルディスカッション「これからの秋田のプログラミング教育を考える」（90分） ＜話題提供者＞ 秋田大学教育文化学部教授 林良雄氏 秋田県立大学システム科学技術学部准教授 廣田千明氏 秋田市立四ツ小屋小学校教諭 大久保武彦氏 ＜助言者＞ 宮城教育大学教授 安藤明伸氏 ＊参加者の質問を受け付けた。 2. 使用教材 下記URL資料 <a href="https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_report.html">https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_report.html</a> ＊報告書として編集し、今後も活用できるようにした。（参考資料①）
第8回あきたの教師力高度化フォーラム	105分	先進的な知見と取組から	1. 内容・形態・進め方 ○基調講話「『主体的に学習に取り組む態度』の評

化フォーラム		ら「学習評価」についての理解を深める。	<p>価の趣旨」（60分）</p> <p>&lt;講師&gt;      関西学院大学学長特命・高大接続センター副長・教授 佐藤真氏</p> <p>○鼎談「これからの秋田のプログラミング教育を考える」（45分）</p> <p>&lt;鼎談者&gt;      関西学院大学学長特命・高大接続センター副長・教授 佐藤真氏      秋田大学教育文化学部附属小学校長 成田雅樹氏      秋田大学大学院教育学研究科教職実践専攻長 佐藤学氏</p> <p>*参加者の質問を受け付けた。</p> <p>2. 使用教材      下記URL資料  <a href="https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_report.html">https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_report.html</a>      *報告書として編集し、今後も活用できるようにした。（参考資料②）</p>
第9回あきたの教師力高度化フォーラム	530分	先進的な知見と取組から「教員研修の高度化」についての理解を深める。	<p>1. 内容・形態・進め方</p> <p>○講話「教育センター、教職大学院の連携による教員研修の高度化」（60分）</p> <p>&lt;講師&gt;      教職員支援機構つくば中央研修センター長 葛上秀文氏</p> <p>○シンポジウム「教員育成指標の実効性を高める教員研修の在り方」（90分）</p> <p>&lt;シンポジスト&gt;      秋田県総合教育センター副所長 坂本寿孝氏      小坂町立小坂小・中学校長 中井淳氏      秋田大学教職大学院教授 田仲誠祐氏</p> <p>&lt;コメンテーター&gt;      教職員支援機構つくば中央研修センター長 葛上秀文氏</p> <p>*参加者の質問を受け付けた。</p> <p>○県総合教育センター連携による発表（90分）      学部生、センター研修員</p> <p>○研究成果発表会      学部卒1年次院生（40分）      学部卒2年次院生（130分）      現職教員院生1年次・2年次（120分）</p> <p>2. 使用教材</p>

			<p>下記URL資料  <a href="https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_report.html">https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_report.html</a>  *報告書として編集し、今後も活用できるようにした。(参考資料③)</p>
被災地等調査 研修旅行	960 分	被災地、教育先進校の視察、宮城教育大学教職大学院との交流「震災理解」「危機管理意識の向上」「教育的視野の拡大」「院生・研修員の団結」を図る。	<p>1. 内容・形態・進め方・使用教材</p> <p>○事前学習会 [令和元年9月27日] (240分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「想定外」を生き抜く力 群馬大学(当時) 片田敏孝</li> <li>・命と向きあう教室ー被災地の15歳、1年の記録 宮城県東松島市立鳴瀬みらい中学校(当時) 制野俊弘</li> <li>・ぼくたちわたしたちが考える復興夢をのせてー 宮城県石巻市立雄勝小学校震災2年目の実践 徳水博志</li> </ul> <p>○調査研修旅行</p> <p>第1日目 [令和元年10月25日]</p> <p>9:00 秋田大学出発</p> <p>13:00 仙台市立荒浜小学校跡・震災遺構見学(60分)</p> <p>15:00 宮城教育大学教職大学院との交流(120分)</p> <p>19:40 宿舎到着(仙台市)</p> <p>第2日目 [令和元年10月26日]</p> <p>8:30 宿舎出発</p> <p>10:00 石巻市立大川小学校跡見学 元雄勝小学校教師徳水博志さんの案内(60分)</p> <p>11:30 石巻市・復興まちづくり情報交流館・雄勝館 徳水さんから防災教育、復興教育の講話(150分) 39</p> <p>15:00 徳水さん夫妻が取り組む雄勝ローズファクトリーガーデン見学(60分)</p> <p>16:40 宿舎到着(石巻市)</p> <p>第3日目 [令和元年10月27日]</p> <p>8:50 宿舎出発</p> <p>10:00 南三陸町語り部ガイド 南三陸ポータルセンター、戸倉中学校跡、防災庁舎跡(90分)</p> <p>12:30 南三陸出発</p> <p>16:00 秋田大学到着</p> <p>○事後分析 [令和元年12月13日]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目「学校危機管理の現状と課題」において危機管理に関する指導案、研修案の検討(90分)</li> </ul> <p>○成果発表 [令和元年12月20日]</p>

		<p>・科目「学校危機管理の現状と課題」において危機管理に関する指導案、研修案の発表（90分）</p> <p>*本調査研修旅行の報告は、今後も活用できるように下記URLに示す報告書としてまとめた。（参考資料④）</p> <p><a href="https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_report.html">https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_report.html</a></p>
--	--	--

<再編成したコースの内容、実施形態（講義・演習・協議等）、時間数、使用教材、進め方>

研修項目	時間数	目的	内容、形態、使用教材、進め方等
院科目「ふるさと秋田のキャリア教育」	前期 1350 分	キャリア教育をいかに推進していくかについて、秋田県が推進してきた「ふるさと教育」との関わりをふまえつつ理解を深める。	<p>1. 内容・形態・進め方</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：キャリア教育の歴史、政策的動向</p> <p>第3回：キャリア教育の方法論、家庭や地域との連携</p> <p>第4回：秋田県におけるキャリア教育</p> <p>第5～7回：実地研究（秋田県教委主催「キャリア教育研究協議会」への参加）</p> <p>第8回：実地研究のふりかえり</p> <p>第9～10回：キャリア教育実践報告</p> <p>第11～14回：実践デザイン（キャリア教育全体計画）の検討</p> <p>第15回：実践デザインのプレゼンテーション（各回90分）</p> <p>*研究者教員（原義彦、外池智、細川和仁）と実務家教員（田仲誠祐、廣嶋徹、三浦亨）によるティーム・ティーチング。</p> <p>2. 使用教材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省（2011）、小学校キャリア教育の手引き改訂版、教育出版。</li> <li>・文部科学省（2011）、中学校キャリア教育の手引き、教育出版。</li> <li>・文部科学省（2012）、高等学校キャリア教育の手引き、教育出版。</li> </ul>
院科目「障害児支援におけるチームアプローチ」	前期 1350 分	障害のある児童生徒の教育では、チームによる支援が欠かせない。本授業では、チームアプローチの重要性を理解	<p>1. 内容・形態・進め方</p> <p>第1回：オリエンテーション・チームアプローチの重要性</p> <p>第2回：特別支援教育コーディネーターの役割と実際</p> <p>第3回：校内委員会の役割</p> <p>第4回：校内委員会の実際</p> <p>第5回：校内委員会の実践例</p> <p>第6回：センター的機能の役割</p> <p>第7回：センター的機能の実際</p> <p>第8回：センター的機能の実践例</p> <p>第9回：外部専門家の役割</p>

		<p>するとともに、その方法を具体的に理解する。</p>	<p>第10回：外部専門家活用の実際  第11回：外部専門家活用の実践例  第12回：チームでの授業づくりの実際  第13回：チームでの授業づくりの実践例  第14回：就学相談におけるチームアプローチの実際とケース検討  第15回：移行支援におけるチームアプローチの実際とケース検討  （各回90分）  *研究者教員（武田篤、前原和明）によるティーム・ティーチング。  2. 使用教材  ・干川隆（2012）、特別支援教育のチームアプローチ、ジアース教育新社。  ・国立特別支援教育総合研究所(2007)、学校コンサルテーションブック1、ジアース教育新社。  ・国立特別支援教育総合研究所(2007)、学校コンサルテーションブック2、ジアース教育新社。  ・国立特別支援教育総合研究所(2007)、学校コンサルテーションブック3、ジアース教育新社。</p>
院科目「発達障害の事例分析と対応策の検討・評価」	前期 1350分	<p>学齢期および成人期における発達障害児・者が抱える困難やニーズについて、教育的視点と発達の視点から把握する力を培い、さらに適切な支援方略を選択・実行する実践力を培う。</p>	<p>1. 内容・形態・進め方  第1回：オリエンテーション  第2回～第6回：発達障害に関する事例研究論文の講読  第7回～第9回：療育現場への訪問・事後検討  第10回～第15回：学校関係者を対象とした研修会の実施・事後検討  （各回90分）  *研究者教員（鈴木徹、前原和明）によるオムニバス、ティーム・ティーチング。  2. 使用教材  ・各授業時の学習テーマに応じて提示する。</p>
院科目「学校教育の現代的課題」	前期 1350分	<p>学校教育の全体及び各領域における現状と課題を把握</p>	<p>1. 内容・形態・進め方  第1回：ガイダンス・教職大学院の概説  第2回：教員育成指標と教員の成長  第3回：教員のキャリア分析と自己の課題  第4回：学校を取り巻く諸課題：学習指導要領  第5回：学校を取り巻く諸課題：地域に開かれた</p>

		し、そして改善の方策を探ることができる。	<p>学校</p> <p>第6回：学校を取り巻く諸課題：キャリア教育</p> <p>第7回：学校を取り巻く諸課題：秋田県の状況</p> <p>第8回：校長及び教職員のリーダーシップ</p> <p>第9回：教育と福祉をめぐる課題：子ども食堂等</p> <p>第10回：カリキュラムマネジメント</p> <p>第11回：授業・カリキュラム改革の先進事例：幼稚園・小学校</p> <p>第12回：授業・カリキュラム改革の先進事例：中学校・特別支援学校</p> <p>第13回：授業・カリキュラム改革の先進事例の検討</p> <p>第14回：学校改革の実際：教育課程面</p> <p>第15回：学校改革の実際：学校経営面（各回90分）</p> <p>*研究者教員（佐藤修司）と実務家教員（古内一樹、奥瑞生）によるティーム・ティーチング。</p> <p>2. 使用教材</p> <p>・各授業時の学習テーマに応じて提示する。</p>
院科目「学校危機管理の現状と課題」	後期 1350分	学校危機管理の全体及び各領域における現状と課題を把握し、そして改善の方策を探ることができる。	<p>1. 内容・形態・進め方</p> <p>第1回：学校危機管理全体の現状と課題</p> <p>第2回：自然災害(1)「地震・土砂災害・風水害」</p> <p>第3回：自然災害(2)「津波・噴火・落雷」</p> <p>第4回：自然災害(3)「自然災害への対処」</p> <p>第5回：人為災害(1)「不審者・犯罪者、火災・放火」</p> <p>第6回：人為災害(2)「交通事故・安全、火災・放火」</p> <p>第7回：人為災害(3)「情報管理、情報漏洩」</p> <p>第8回：危機管理に関わる学校の対応状況</p> <p>第9回：危機管理に関わる学校の組織体制</p> <p>第10回：危機管理に関わる指導案の作成・協議</p> <p>第11回：危機管理に関わる指導案の発表・協議</p> <p>第12回：教員研修の実際：保護者対応のケースメソッド</p> <p>第13回：教員研修の実際：保護者対応のロールプレイング</p> <p>第14回：教員研修の実際：ポジションペーパーの作成</p> <p>第15回：教員研修の実際：マスコミ対応のロールプレイング（各回90分）</p> <p>*研究者教員（佐藤修司、林信太郎）と実務家教員（鎌田信、廣嶋徹）によるティーム・ティーチング。</p> <p>2. 使用教材</p> <p>・坂根健二編（2012）、学校防災最前線、教育開</p>

			発研究所。 ・田中正博・佐藤春雄（2013）、教育のリスクマネジメント、時事通信社。 ・渡辺正樹編（2013）、学校安全と危機管理、大修館書店。
院科目「教職実践リフレクションⅡ－実践指導研究」	後期 1350分	教員に必要な実践的な知識・技能・態度を総合的に学ぶ。授業づくり、学級づくりについての実際の学校現場での知見を学ぶ。さらに、学部学生に対してメンター的な役割を果たすことで、実践的指導力を高める。	1. 内容・形態・進め方 第1回：オリエンテーション 第2回：キャリア教育の歴史，政策的動向 第3回：キャリア教育の方法論，家庭や地域との連携 第4回：秋田県におけるキャリア教育 第5～7回：実地研究（秋田県教委主催「キャリア教育研究協議会」への参加） 第8回：実地研究のふりかえり 第9～10回：キャリア教育実践報告 第11～14回：実践デザイン（キャリア教育全体計画）の検討 第15回：実践デザインのプレゼンテーション（各回90分） ＊研究者教員（原義彦、外池智、細川和仁）と実務家教員（田仲誠祐、廣嶋徹、三浦亨）によるティーム・ティーチング。 2. 使用教材 ・文部科学省（2011）、小学校キャリア教育の手引き改訂版、教育出版。 ・文部科学省（2011）、中学校キャリア教育の手引き、教育出版。 ・文部科学省（2012）、高等学校キャリア教育の手引き、教育出版。

## ○研修の評価方法、評価結果

研修の評価は、ミドルリーダーコース受講者を対象にした質問紙調査、あきたの教師力高度化フォーラム参加者を対象にした質問紙調査から行った。

### ＜受講者対象質問紙調査＞

受講者全員を対象に、質問紙調査を行った。

[質問1] 本学で受講する授業科目を選ぶ際、基準にされたことはどのようなことでしたか。ご自由にお書きください。

[回答]

- ・センターでの研修が入りにくい曜日の授業をかつ、専門である特別支援教育に関するものを選んだ。
- ・自分の研究領域との関連。これまでの経験で興味をもっていた分野。
- ・所属校に戻ってから現場に還元できる内容かどうか、スキルアップにつながるかどうか基準に選択した。
- ・教育課題研究に関わる教科や校種のもの。自分が今後、所属校に戻ったときに力を入れたい研修に関連するもの。
- ・曜日（センターから、月・木は×との連絡あり）。教育課題に関すること（できれば、大学

院研修)。教科指導に関すること。

- ・教育現場に戻った際に、少しでも生かせそうな内容と感じた科目。自分の興味・関心。
- \*センター：秋田県総合教育センターの意。

[考察]

- ・受講者は、自身の興味・関心、または所属校の教育課題に合致した科目を選択している。今回は、特別支援教育の分野に関する科目が多く選択された。
- ・受講者の来学日は火曜日、水曜日、金曜日が指定されており、受講者のニーズと合致しない場合がある。
- ・受講者のニーズ、トレンドを把握する必要がある。

[質問2] 本学の授業を受講することは、今後のあなたのキャリアの中でどのように生かせるとお考えになりましたか。ご自由にお書きください。

[回答]

- ・様々な立場からのものの見方を知り、柔軟性をもって考えられるようになると思う。
- ・経験則を理論化できる。根拠をもって教育活動を展開できる。
- ・ミドルリーダーとして、学校経営に参画する力が少しでも身に付けられたらと考えている。また、若手教員を指導する立場としての力を身に付けたい。
- ・所属校に戻った際の研修（校内）や児童理解。
- ・自分が学部やマスターで学んだ頃とは、大学の講義の様相も大きく変わったことを、身をもって学べたこと。受講した内容は、教育現場に戻った際に生かせそうなことも多かった。
- ・今日的な課題を把握することで、今求められる力やそれに伴う指導の在り方を学び、生かすことができる。

[考察]

- ・実践の理論的再構成、理論知を踏まえた実践の構想、多角的な視野と柔軟な思考等、大学院ならではの学びを提供できている。
- ・学部学生の指導（科目「教職実践リフレクションⅫー実践指導研究」）や、学部卒院生と共に受講することで、若手教員を指導することの意味や指導力を意識する機会となっている。
- ・大学院の現状を理解し、学修イメージをリニューアルする機会となっている。

[質問3] 本学の授業を受講してみて、どのようなことにお感じになりますか。1) 授業内容について、2) 本学教員について、3) 他の受講生について、4) 教室等学習環境についての各項目についてご自由にお書きください。

[回答]

1) 授業内容	2) 本学教員	3) 他の受講生	4) 教室等学習環境
・大学生のイメージで受講したため、院生同士の学び合いが多いことに驚いた。授業によっては、大学教員からの講義をもっと聞きたいと感じた。	・話しやすく、研究の相談にもものっていただいた。	・心理学専攻のストレートマスターとの授業は新鮮で新しい知識を得ることができた。	・快適だった。
・おおむね理解しやすいが、秋大附小中の公開を授業の	・グループワークで考えることが多いので、大変参考に	・現職の先生方が多く、校種も多様なので、非常に勉強	・デジタル的にも使いやすい、集中して取り組める。グ

1つとカウントするのは課題あり。同日の講義が強制的に休講。私費で講義を受けることになる等。	なる。	になる。	ループワークがしやすいテーブル配置。
・タイトル通りの内容となっている。	・授業の内容だけでなく、日々の仕事に関わる内容についてもアドバイスをいただき、勉強になる。	・授業中のペットボトル、スマホが気になる。	・清潔感があり、とてもよい。
・実際の場面を想定した授業案を作成したり、事例に沿って考えたりできて、実践的だと感じる。	・受講生の実態を考えながら、授業をすすめて下さっていると感じる。	・知識が豊富で教授の質問に受け答え、真剣である。	・スクリーンは見やすい。教授が照明に気遣ってくださる。
・現職の先生に任せる(頼る)ことが、ままある。	・補強・充実して、指導に当たろうとしていることは伝わります。	・以前より、課題意識は高くなっていると感じます。	・環境も学ぶに相応しく整っていました。
・グループ協議(様々な立場からなるグループ)で、多面的な考え方に触れることができる。	・専門的な知識を授けてくれる、様々な考え方を受け止めてくれる教授陣である。	・熱心で向上心がある受講生が多い。	・すっきりとしていて、集中できる環境である。

[考察]

- ・ 1) 授業内容については、実践を踏まえた内容、アクティブ・ラーニングの手法について評価を得ている。他授業を休講にしないこと、受講生任せにしないことの指摘を検討する必要がある。
- ・ 2) 本学教員については、受講生の実態を踏まえた指導が行えている。
- ・ 3) 他の受講生について、受講生の多様性、積極性が評価を得ている。受講マナーについての指摘がある。
- ・ 4) 教室等学習環境については、十分の評価を得ている。

[質問4] 本学では総合教育センターの研修員の方を対象に、本学の授業を指定した単位受講することによって、今後教職大学院で学ぶ際に単位認定する等の優遇措置をしております。そのことをご存じでしたか。①以前から知っている、②受講開始後に知った、③全く知らないの選択肢から1つお選びください。

また、そのような措置そのものについて、どのように思われますか。ご自由にお書きください。

[回答]

③	・受講前にそのことについて聞いてみたかった。大学教員から説明はなかった。
③	・その措置よりも、教員免許更新講習の認定にもなれば、利にかなっていると思う。

③	・未記入。
③	・広く知らせた方がよいと思います。
③	・とてもよい試みだと考えます。今回の受講が単位につながらないのが、非常に残念です。
②	・教員免許更新にも何らかの形で優遇措置をしていただきたい。

[考察]

- ・単位認定優遇措置は制度化されていないため、受講者の多くが「③全く知らない」と回答している。
- ・単位認定優遇措置について好意的な意見がある。
- ・教員免許更新講習認定から検討することも一考に値する。

<あきたの教師力高度化フォーラム質問紙調査>

第8回あきたの教師力高度化フォーラムにおいて、参加者を対象に、質問紙調査を行った。

[質問1] 今回のプログラムに参加されて、以下の各項目についてどのように感じましたか。あてはまるものに○をつけてください。

[回答]

- ①新しい教育の動向を理解することができた→3.68点
  - ②新しい指導法を知ることができた→3.43点
  - ③学び続けることの重要性を感じた→3.67点
  - ④教職大学院で学ぶことは有意義だと感じた→3.53点
  - ⑤全体的に満足した→3.76点
- \*「そう思う」を4、「どちらかといえばそう思う」を3、「どちらかといえばそう思わない」を2、「そう思わない」を1として平均点を算出。

[考察]

- ・いずれの項目も3点以上であり、新たな教育課題や教職大学院での学びを理解するよい機会となっている。

[質問2] 上記の①～⑤の観点について、特にお感じになったことをお書きください。

[回答]

- ・具体的な指導方法があり、自分の今後の人生に対して、プラスになった。
- ・ゲストの方が、院生に向けて話してくれていた部分もあり、理解がしやすかった。
- ・特に佐藤真先生が具体例を示して説明してくださったので、より評価が現実的になった。2/7のセンターでのお話や映像などもみたく思った。

[考察]

- ・理論と実践の両面から検討できる内容が評価を得ている。
- ・現職教員を対象にした話題、学部卒院生を対象にした話題を用意することが、評価を得ている。

[質問3] 本プログラムについてのご感想があればお書きください。

[回答]

- ・授業だけでは考えつかないような学習が出来たと思います。ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。この学びを自分の実践に生かしていきたいです。
- ・教育について、改めて、考えることができ、とても有意義であったと感じた。
- ・大変中身の濃い充実したプログラムでした。ありがとうございました。
- ・本当に有意義な時間だったと思います。
- ・参加者も多く、たくさんの教育関係者のためになるプログラムだったと思います。

- ・評価の姿勢としてフィードフォワードを大切にしていきたいと考えた。また、子どもが自らの学びをアピールするような形を、目指して行ければと感じた。
- ・とてもよいテーマだったと思います。勉強になりました。教育に対する姿勢にとっても熱いものを感じ、自分もうれしい気持ちになりました。
- ・新しい学習指導要領が目指す姿をより明確に捉えることができた。

[考察]

- ・新たな教育課題について理解を図るよい機会となっている。

[質問4] 本プログラムについてのご感想があればお書きください。

[回答]

- ・授業について、導入、展開、ふり返り。
- ・教員の働き方改革。
- ・回数を減らしても良いと思う。

[考察]

- ・学習指導に関するものの他、時勢を踏まえた話題も挙げられている。

### 3 連携による研修についての考察

(連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等)

秋田県総合教育センターとは、機会あるごとに連携・協働しながら、教員研修の改善・充実に当たることができている。令和元年度（平成31年度）は、秋田大学教育文化学部附属教職高度化センターを設置したことにより、学部・大学院授業への実践知の提供、県センターへの研究、研修の支援と、連携・協働の更なる充実を図ることができるようになった。

一方、秋田県では、教員の大量退職、大量採用が始まっており、この動向を踏まえた事業の展開と改善が求められる。令和元年度（平成31年度）事業もこうした動向を踏まえて計画したものが、秋田県総合教育センター研修員が減員していること、研修員の負担を考慮し受講数に上限があることから、計画どおりの事業展開ができなかった。しかしながら、秋田県教員育成指標と新たな教育課題に対応するよう高度化・体系化したプログラムの必要性や、教職大学院における深い学びについては、質問紙調査から評価を得ていることが確認できることから、内容、方法、運用に係る環境整備を改善することにより、秋田の未来と教育を支える人材育成に寄与することができよう。改善にあたっては、教員の働き方改革の視点も加味して検討したい。

申請中の令和2年度事業では、引き続き学校ミドルリーダーコースを設定する。令和元年度（平成31年度）事業の評価を踏まえ、次の科目をラインアップする。受講者は、自身の興味・関心や所属校の研究課題等のニーズを踏まえ、選択する。

- ・院科目「秋田の授業力の継承と発展」、前期水Ⅱ
- ・院科目「ふるさと秋田のキャリア教育」、後期水Ⅱ
- ・院科目「障害児支援におけるチームアプローチ」、前期水Ⅰ
- ・院科目「発達生涯の事例分析と対応策の検討・評価」、前期金Ⅲ
- ・院科目「情報教育の教材とカリキュラム開発」、後期金Ⅰ
- ・院科目「学校組織文化の形成と機能」、後期金Ⅱ
- ・院科目「課題実地演習Ⅰ」・「課題実地演習Ⅱ」、通年集中

また、本県においては、今後、次期管理職層が薄くなる傾向があること、年齢構成の偏りにより十分なマネジメント経験を持たず、管理職に登用される教員が増加するものと予想されることから、管理職着任前研修が必要とされている。これらを踏まえ、新たに、学校組織開発リーダーコース（管理職育成研修）を設定する。具体的には、理論的な研修を教職大学院が、実務的な研修を秋田県教育委員会がそれぞれ受け持ち、3日程度の研修を行う。

さらに、運用に向けた環境整備として、受講者の研修方法、研修費用、質保証と認定方法等につ

いて、秋田県教育委員会と協議しながら検討していく必要がある。

#### 4 その他

[キーワード] 教員育成指標、秋田県教職員研修体系、ミドルリーダー養成、被災地等調査研修旅行リレー、学校組織開発リーダーコース、管理職着任前研修

[人数規模]

A. 10名未満    B. 11～20名    C. 21～50名    D. 51名以上

[研修日数(回数)]

※「受講者が何日間（又は何回）の研修を受講したかを次の記号の中から選ぶこと。補足事項があれば、（ ）内に記入すること。

A. 1日以内    B. 2～3日    C. 4～10日    D. 11日以上  
 (1回)    (2～3回)    (4～10回)    (11回以上)

#### 【担当者連絡先】

##### ●実施機関 ※実施した大学名又は教育委員会名等を記載すること

実施機関名	秋田大学大学院教育学研究科教職実践専攻	
所在地	〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1番1号	
事務担当者	所属・職名	教育文化学部総務・会計グループ総務担当 事務職員
	氏名（ふりがな）	鎌田 夏帆                      (かまだ なつほ)
	事務連絡等送付先	同上
	TEL/FAX	TEL:018-889-2509 / FAX:018-833-3049
	E-mail	kyosou@jimu.akita-u.ac.jp

##### ●連携機関 ※共同で実施した機関名を記載すること

連携機関名	秋田県教育委員会	
所在地	〒010-8507 秋田県秋田市山王3丁目1番1号	
事務担当者	所属・職名	総務課政策企画・広報班 副主幹（兼）企画監
	氏名（ふりがな）	大山 厚                      (おおやま あつし)
	事務連絡等送付先	同上
	TEL/FAX	TEL:018-860-5112 / FAX:018-860-5851
	E-mail	Oyama-Atsushi@pref.akita.lg.jp